

ウィークリー・ブレッド・オブ・ライフ
(2023年12月18日(月)～24日(日))

岸和田聖書教会
牧師 栗原純人

「ブレッド・オブ・ライフ」とは「いのちのパン」(ヨハネ 6:48)。「わたしはいのちのパンです」と言われるイエス・キリストさまに聞きましょう。今日一日の力です。以下の手順を参考に聖書を読みましょう。

1. 静まります。「しかし私は 義のうちに御顔を仰ぎ見 目覚めるとき 御姿に満ち足りるでしょう。」(詩篇 17:15)
2. 声に出してその日の聖書日課を読みます。
3. 気づいたこと、わからないことなどを箇条書きし、その後『みことばの光』、このブレッド・オブ・ライフの文章を読みます。わかったことがあったら、さらに書いてみましょう。
4. もう一度、聖書日課を読みます。違う響きがあるでしょうか？
5. 祈りましょう。実際に声に出して。そして祈りの中心部分を書いてみましょう。一日の終わりに、今朝の聖書を思い起こし、みことばがどのように生きたか、思い巡らしましょう。

今週も「箴言」を読みます。今週で箴言は終わり。主を恐れること、それがまことの知恵です。

12月18日(月)

今日の聖書日課：箴言 27:1～27

明日のことを誇るな。一日のうちに何が起こるか、あなたは知らないのだから。

箴言 27:1

本当にそうです。自分の一日のうちに何が起こるか、誰も知らないのです。知っているのは主おひとり。だから明日のことを誇りません。主を誇ります。「わたし自身、あなたがたのために立てている計画をよく知っている。一主のことば一。」(エレミヤ 29:11)。私のために良い計画を持ち、導いてくださる主を。

12月19日(火)

今日の聖書日課：箴言 28:1～28

欲の深い人は争いを引き起こす。しかし、主に拠り頼む人は豊かにされる。 箴言 28:25

欲の深い人、その人は富を求めますが、その求めるものを手にすることができません。むしろ人との間に争いを引き起こします。しかし、主に拠り頼む人は豊かにされるのです。「まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。」(マタイ 6:33)。「それに加えて与えられる」ものを第一としていませんか？

12月20日(水)

今日の聖書日課：箴言 29:1～27

幻がなければ、民は好き勝手にふるまう。しかし、みおしえを守る者は幸いである。

箴言 29:18

幻：ビジョン。人生にビジョンがあるか？もし、ないならその人はただ空しくすごすだけ。そのビジョンとは何か？どこから来るのか？みおしえ、みことばから来ます。ビジョンはあるときパッと与えられる、というよりも、毎日、みことばに聞き続ける中で、神さまの自分への願い、そして私の人生のビジョンが与えられるのです。その人は、たくさん苦労しますが、幸せです。幸せは目的ではなく、結果です。

12月21日(木)

今日の聖書日課：箴言 30：1～33

神のことは、すべて精練されている。神は、ご自分に身を避ける者の盾。

箴言 30：5

箴言の終わり、30章、31章は、ソロモンのことばではありません。30章は「マサの人ヤケルの子アグルのことば」(1)。イスラエル人なのか、それすらわかりません。アグルは言います。「私はまだ知恵も学ばず、聖なる方の知識も持っていない。」(3)と。これは、彼のへりくだりのことばであり、実際、彼はここで自分に示された多くの知恵、知識を語っています。その知恵と知識の元は何か？神のことばです。ただ自分が感じたことではなく、はっきりとした純粋なみことば。祈りによってご自分に身を避けるアグルに主が語られたことば。そうです。祈りとみことば。人生の、生活の中で私たちが主を見上げ、声をあげるとき、あなたに語られるみことば。そのみことばで生きるのです。悩むことは良いことです。祈る方向がはっきりするからです。

12月22日(金)

今日の聖書日課：箴言 31：1～31

麗しさは偽り、美しさは空しい。しかし、主を恐れる女はほめたたえられる。 箴言 31：30

箴言の最終章 31章は「マサの王レムエルが母から受けた戒めのことば」(1)。昨日と同様、この人がイスラエル人であるのかどうか、わかりません。旧約の系図にこのような王がいたとは記されていません。しかしこの 31章の最後の最後で、母は息子であるレムエルに語りました。それが冒頭の聖句。母はレムエルに、彼にふさわしい妻が与えられるようお願い、語ってきました。その妻の特徴とは「主を恐れる女」。これは箴言全体のテーマです。すなわち「主を恐れることは知識の初め」(1：7)、「主を恐れることは知恵の初め」(9：10)。主を恐れる女、主を恐れる者。どんなときでも主を認め、主に従う者に、ふさわしい知恵と知識は与えられるのです。

あなたは今回の箴言の通読で、何を学びましたか？

12月23日(土)

今日の聖書日課：ルカ 1：57～66

聞いた人たちはみな、これらのことを心にとどめ、「いったいこの子は何になるのでしょうか」と言った。主の御手はその子とともにあったからである。 ルカ 1：66

今日から三日続けてルカの福音書のクリスマスの記事を読みます。といっても 1章は主役であるイエスではなく「名脇役」ヨハネの誕生について(礼拝で学びましたね)。あの老夫婦ザカリヤとエリサベツ夫妻に子が与えられました。不妊の女性エリサベツが男の子を産んだのです(57)。周りの人たちは、このことを喜びました(58)。彼らは当然、この夫婦がその子の名を父の名にちなんでザカリヤとつけると思いました(59)。が、そうではありませんでした。まずエリサベツが息子を「ヨハネとしなければなりません」(60)と言いました。夫ザカリヤが御使いから命じられたことです(13)。そして追い打ちをかけるように、口がきけなくなっていたザカリヤが筆談で「その子の名はヨハネ」と言いました(63)。すると彼の口が開かれものが言えるようになりました(64)。みんな驚いて冒頭の聖句。最初から神の御手があったヨハネ。彼こそが、名脇役として主イエスに仕えた人でした。

12月24日(日) クリスマス礼拝 本日の礼拝説教箇所：ルカ 2：8～20「あなたの居場所」

本日は坂本庸子姉のバプテスマ(洗礼)式が行われます。心から祝福しましょう！